

# Kyowa Hakko Kirin Report 2015

協和発酵キリン株式会社



## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間) 土日休日を除く9:00~17:00
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ウェブサイト <a href="http://www.kyowa-kirin.co.jp/ir/">http://www.kyowa-kirin.co.jp/ir/</a>
証券コード	4151

## お知らせ

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続きについては、以下の三井住友信託銀行株式会社のフリーダイヤル又はウェブサイトでご受け付けております。

フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間) 土日休日を除く9:00~17:00  
ウェブサイト <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

# KYOWA KIRIN

協和発酵キリン株式会社

〒100-8185 東京都千代田区大手町一丁目6番1号 (大手町ビル)  
電話 03-3282-0007  
<http://www.kyowa-kirin.co.jp/>

## 特集

2013-2015年 中期経営計画

# 新たなステージ への飛躍



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

### 会社紹介

協和発酵キリンは、画期的な新薬を継続的に創出し、開発・販売をグローバルに展開することにより、世界の人々の健康と豊かさに貢献しています。

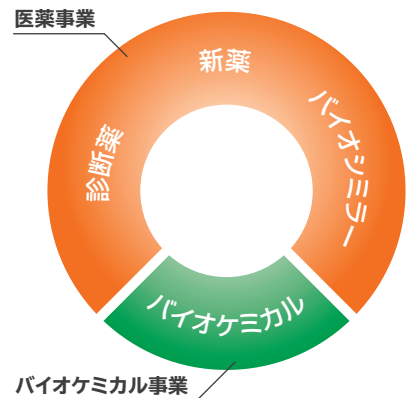
### ビジョン

**G**lobal グローバル 世界を舞台に  
**S**pecialty スペシャリティ 強みのあるカテゴリー\*に集中して活躍する  
**P**harmaceutical Company ファーマ 製薬会社

\*腎、がん、免疫・アレルギー、中枢神経の4カテゴリー

### 事業領域

新薬を中心に、診断薬やバイオシミラーも手掛ける医薬事業と、バイオケミカル事業からなる、世界でもユニークな事業構造。



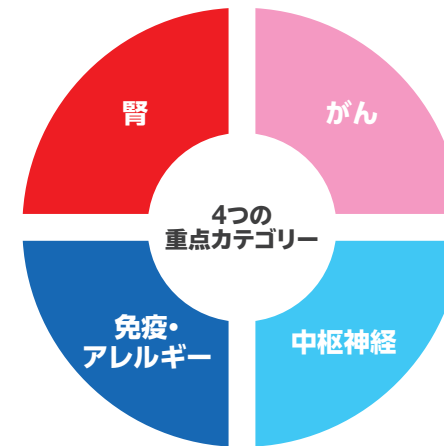
第93期 2015年1月1日～2015年6月30日

売上高  
**1,788**億円

営業利益  
**224**億円

四半期純利益  
**95**億円

### 重点カテゴリー



### パイプライン

フェーズⅢ以上

**8**品目

### グローバルプレゼンス

協和発酵キリングループが海外で販売中の医療用医薬品

**27**品目



代表取締役社長

花井 陳雄

グローバル・スペシャリティファーマ

# GSPの 実現へ向けて

## 2013-2015年 中期経営計画の進捗

2013-2015年中期経営計画では、「グローバル・スペシャリティファーマ（以後、GSP）への挑戦」をテーマに、3つの基本戦略のもとで2016年以降の飛躍のための基盤整備を進めています。最終年である2015年の1月から6月までの概況は、以下のとおりです。

- 1 カテゴリー戦略による国内競争力の更なる強化**  
 医薬事業では、腎、がん、免疫・アレルギー、中枢神経という4つのカテゴリーに注力することで、強みを活かして事業を推進しています。今期は医療関係者への情報提供力を磨くべく、パーキンソン病に特化した領域専任担当を新たに配置しました。
- 2 GSPへ向けた欧米／アジアでの事業基盤拡充**  
 ProStrakan Group plc (ProStrakan)は、2014年に買収したArchimedes Pharma Limited (Archimedes)と合併することで、更なる飛躍を遂げました。
- 3 バイオケミカル事業の収益基盤の強化**  
 収益構造の改善に向けて建設を進めていた、海外アミノ酸の生産拠点となるタイの新たな工場が竣工を迎えました。

## 2015年1-6月期の連結業績

売上高は1,788億円（前年同期比10.5%増）、営業利益は224億円（同22.0%増）、経常利益は200億円（同19.1%増）、四半期純利益は95億円（同3.7%増）となり、前年同期比で増収増益となりました。

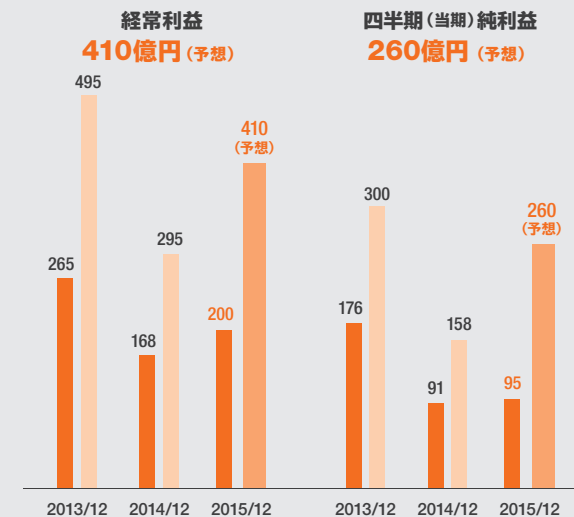
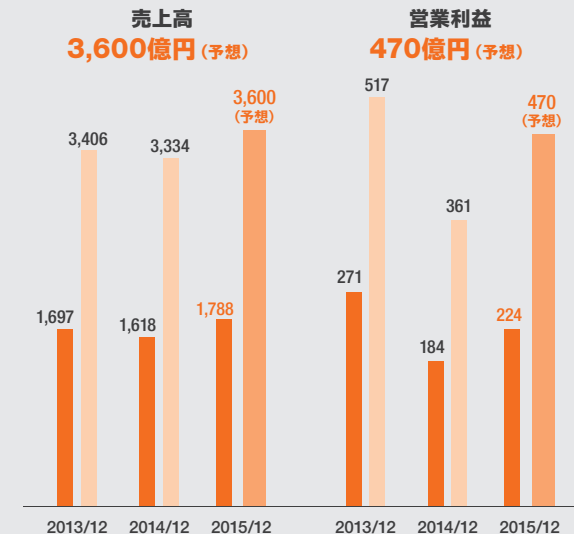
### トピックス

医薬事業では、2014年に発売した持続型G-CSF製剤「ジーラスタ<sup>®</sup>」、尋常性乾癬治療剤「ドボベット<sup>®</sup>」、2013年発売の2型糖尿病治療剤「オングリザ<sup>®</sup>」、パーキンソン病治療剤「ノウリアスト<sup>®</sup>」等の新製品群の伸長に加えて、2014年に買収したArchimedesの連結の影響等が増収増益に寄与しました。

研究開発においては、カルシウム受容体作動薬「レグパラ<sup>®</sup>」が、きめ細かな用量調整に適した低用量規格製剤の承認を取得し、6月から発売を開始しました。また、成人T細胞白血病リンパ腫等の治療剤として国内で販売中の「ポテリジオ<sup>®</sup>」は、開発パートナー企業とともに、国内および海外で固形がんを対象とした臨床試験を開始しました。

バイオケミカル事業では、国内ヘルスケア領域の通信販売、海外のサプリメント向けおよび輸液用アミノ酸等の伸長が増収に寄与しましたが、国内の医薬・医療領域のジェネリック医薬品原薬の売上減少等で減益となりました。

業績ハイライト ■第2四半期（億円） ■通期（億円） ■通期・予想（億円）



## 日米で看護・医療に携わった経験を活かし、協和発酵キリングループの価値創造に貢献します

私は1970年から約30年間、米国で看護や医療に携わりました。高齢化と医療費増大に対する医療改革の全盛期だった1980年代には、訪問看護サービス会社の立ち上げに取り組みました。日本に帰国した後は、大学において教育とともに大学経営にも着手しました。法人化した青森県立保健大学の初代理事長・学長として、研究を推進するための学外との連携システムの構築、効率性を重視した組織や制度の変更や導入など、様々な改革に挑戦しました。

本年の株主総会で社外取締役に選任後、私の経歴に興味を持たれた株主の方から激励のお言葉をいただきました。多様化した社外取締役への期待感に喜びと身が引き締まる思いでした。これまでの日米での経験を活かし、適切な助言を通じて協和発酵キリングループの企業価値向上に貢献していきたいと考えています。また、ジェンダーに依らず優れた人材を育成することは、企業の生産性を向上させて持続的な成長に繋がることから、女性のタレントも十分発揮できるように尽力します。



社外取締役 リボウィッツ よし子  
Yoshiko Leibowitz

略 歴

1968年	4月	聖路加国際病院勤務
1977年	9月	ワシントン州立大学 看護学講師
1981年	5月	トーマス・ジェファーソン大学病院 FRC看護婦長
1984年	7月	同病院 副看護部長
1995年	4月	訪問看護ステーション設立
1998年	4月	大分医科大学教授
2002年	4月	青森県立保健大学教授
2003年	4月	同大学国際科長、看護学科長(2006年兼任)
2007年	4月	同大学学長
2008年	4月	公立大学法人青森県立保健大学 理事長・学長
2014年	6月	同大学名誉教授(現任)
2015年	3月	協和発酵キリン株式会社 取締役(現任)



### 2015年12月期の通期業績見通し

2015年1-6月期は、医薬事業の売上高および営業利益が当初計画を上回る水準で推移しました。さらに2015年7-12月期は、持分法による投資損失の減少や法人税等負担率の低減などが見込まれます。この業績動向等を踏まえた通期の業績の見通しとして、連結ベースの売上高は3,600億円、営業利益は470億円、経常利益は410億円、当期純利益は260億円を見込んでいます。

### 展望

医療制度の充実した日本では国民が最新の医療を等しく享受できます。その一方で、少子高齢化に伴って

増大する医療費は国の財政を圧迫し、制度存続と医療費削減に向けた様々な政策が検討されています。

このような社会の課題に対して、当社は2つの切り口から貢献できると考えています。1つは、先進性、信頼性、そして経済性を兼ね備える医薬品を、継続的に創出すること。もう1つは、医薬、診断薬、バイオケミカル事業が集まるユニークな事業構造を活かして、健康の維持をサポートする製品を提供することです。

今後とも、株主の皆様から長くご期待いただける企業を目指して全力を尽くしてまいります。なお一層のご理解ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 新たなステージへの飛躍

2013-2015年 中期経営計画では、「グローバル・スペシャリティファーマ (GSP) への挑戦」をテーマとして掲げ、「カテゴリー戦略による国内競争力の更なる強化」、「GSPへ向けた欧米／アジアでの事業基盤拡充」、「バ

イオケミカル事業の収益基盤の強化」、という3つの基本戦略に則った基盤整備を進めています。最終年である2015年1-6月の取り組みと進捗の一部をご紹介します。

## GSPへのロードマップ



## エリア戦略部の新設

地域における効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するため、各都道府県では4月より「地域医療構想」の策定作業が始まりました。地域毎に異なる医療機関の機能分化や連携のあり方、情報ニーズに対応するためには、従来の方針に加えて地域事情に合わせた活動が必須です。こうした環境変化を踏まえ、各地域

(エリア)における戦略の策定・実行を支援する組織であるエリア戦略部を4月に新設しました。エリア事情に適した提案を模索・展開しながら、医療関係者の皆様に、最適な情報提供活動を進めてまいります。

## 新薬ジーラスタ<sup>®</sup>成長中

2014年11月に発売した「ジーラスタ<sup>®</sup>」は持続型のG-CSF製剤で、がん化学療法時の重篤な副作用の一つである発熱性好中球減少症の発症抑制に用いられます。化学療法1サイクルにつき1回の投与で従来のG-CSF製剤に劣らない効果を発揮するため、従来のG-CSF製剤の課題の一つだった「連日投与による負担」を軽減できることから、発売後は予想を上回るスピードで市場浸透が進んでいます。また、「リスクに応じて発熱性好中球減少症の発症の可能性を下げる」という、新たな選択肢を提供することを通じ、がん治療に貢献することを目指します。

G-CSF製剤国内市場でシェア  
**No.1**  
 持続型G-CSF製剤  
 ジーラスタ<sup>®</sup>  
 ©2015 IMSヘルス、JPM2015年6月をもとに作成  
 無断転載禁止

## パーキンソン病領域専任担当による情報提供の開始

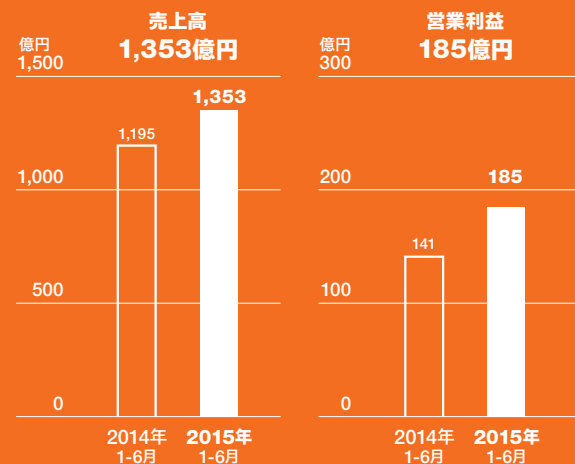
「ノウリアスト<sup>®</sup>」は当社が創製したパーキンソン病治療剤で、2013年に世界に先駆けて日本で発売されました。新規メカニズムを有する新薬のポテンシャルを最大限まで引き出すために、パーキンソン病の診療を専門に行う医療機関を中心に訪問する、パーキンソン病領域専任担当を全国に配置しました。各支店担当地域のオピニオンリーダーの先生方に、日々の面会や講演会等を通じて、患者さん一人ひとりの症状にマッチした質の高い薬物治療を提案することで、パーキンソン病治療への貢献と、「ノウリアスト<sup>®</sup>」の更なるプレゼンス向上を目指します。

パーキンソン病を治療する医療現場では、従来のドパミン補充療法とは異なる、新しい作用機序の薬が待ち望まれていました。新薬を安全かつ効果的に処方していただくためには、薬物治療に関する十分な情報提供が不可欠です。私たちは、医療現場に「ノウリアスト<sup>®</sup>」の適正使用情報を提供することで、「ノウリアスト<sup>®</sup>」を必要としている一人でも多くの患者さんにお届けできるように努めていきます。

営業本部 マーケティング部 中枢神経・消化器領域グループ  
 パーキンソン病領域専任担当  
**富田早紀**



日本発のグローバル・スペシャリティファーマを目指し、アンメットメディカルニーズ※に  
 応える画期的な新薬創出へのチャレンジを続けます。腎、がん、  
 免疫・アレルギー、中枢神経の4カテゴリーに注力  
 するカテゴリー戦略に基づき、研究開発から生産、  
 販売までの各機能間の連携を一層強化して、創薬  
 の加速と製品価値の最大化を図ります。



※治療薬の無い疾患や、既存薬の効果が不十分な疾患など、充足されていない医療上の需要。

2015年1-6月期の売上高は、前年同期比13.2%増の1,353億円となりました。

国内の医療用医薬品の売上高は、新製品群の伸長等により前年同期を上回りました。海外の売上高は、昨年8月から連結したArchimedesの影響等により前年同期を上回りました。ProStrakan（Archimedes連結後）の売上高は前年同期比52.0%増の202億円、のれん等償却後の営業利益は同67.0%増の10億円となりました。アジアでは、韓国や中国を中心に堅調に推移し、為替の円安進行もあり売上高は前年同期を上回りました。2月にカルシウム受容体作動薬「レグパラ®」の12.5mg製剤の承認を取得し、6月に発売しました。また、7月に遺伝子組換えアンチトロンビン（以後、AT）製剤KW-3357の先天性AT欠乏に基づく血栓形成傾向およびAT低下を伴う播種性血管内凝固症候群を効能・効果とする製造販売の承認を取得しました（製品名：「アコアラン®」）。



カルシウム受容体作動薬「レグパラ®錠12.5mg」を発売

「レグパラ®」は、副甲状腺のカルシウム受容体に作用することにより、副甲状腺ホルモンの分泌を抑制する薬剤です。2008年に維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤として発売されてから7年が経過し、多くの患者さんにお使いいただいています。低用量規格である12.5mg製剤の発売によって、よりきめ細かな用量調整が可能となります。



富士リサーチパーク内に新たな研究棟（IK8棟）を竣工

3月に富士リサーチパーク（静岡県駿東郡）に新たな研究棟としてIK8棟を竣工しました。2010年より実施中の工場再編の計画に基づく合成技術研究所（大阪府堺市）の移転に伴い、IK8棟に創薬研究と工業化研究の両機能を集約します。高い機能性とフレキシビリティはもちろんのこと、安全性と環境面に配慮した最先端の研究施設で、合成医薬品の研究開発から生産の効率化を図ります。



「アコアラン®」の国内医薬品製造販売承認を取得

「アコアラン®」は、当社独自の糖鎖構造制御技術を用いた、ヒト天然型ATと同一のアミノ酸配列、同じタイプの糖鎖構造を持つ世界初の遺伝子組換えAT製剤です。本剤の発売で、ヒト血漿成分を含まないAT製剤が供給できるようになります。販売および医療機関への情報提供活動は、一般社団法人日本血液製剤機構が担当します。



日本薬学会創薬科学賞を受賞

3月に神戸で開催された第135回日本薬学会年会において、「新規成人T細胞白血病リンパ腫治療薬モガムリズムマブ（高ADCC活性POTELLIGENT®技術を応用したヒト化抗CCR4抗体）の研究開発」が、日本薬学会創薬科学賞を受賞しました。本剤は臨床試験で高い有効性が確認され、CCR4陽性成人T細胞白血病リンパ腫等を対象として認可されています（製品名：「ポテリジオ®」）。産学連携の成功事例としても評価をいただいたことから、今後もオープンイノベーション等を活用した独創性の高い研究開発を継続し、技術開発や創薬で医療に貢献してまいります。



## 医薬事業—パイプライン

### 新薬開発状況(フェーズII以降)

2015年7月24日現在

領域	種別 <sup>*1</sup> 開発番号等	対象疾患	開発国または地域	開発段階 フェーズII	フェーズIII	申請
腎	KHK7580	二次性副甲状腺機能亢進症	日本	▶	▶	▶
	○ KRN321	腎性貧血(透析施行中)	中国	▶	▶	▶
	RTA 402	2型糖尿病を合併する慢性腎臓病	日本	▶	▶	▶
がん	ARQ 197	肝細胞がん	日本	▶	▶	▶
		未梢性T細胞リンパ腫	欧州	▶	▶	▶
	● KW-0761	成人T細胞白血病リンパ腫	米国、欧州、その他	▶	▶	▶
		皮膚T細胞性リンパ腫	米国、欧州、日本、その他	▶	▶	▶
免疫・アレルギー	● BIW-8962	悪性腫瘍	韓国	▶	▶	▶
	● ASKP1240	臓器移植時の拒絶反応	米国	▶	▶	▶
	● KHK4563	気管支喘息	日本、韓国	▶	▶	▶
		慢性閉塞性肺疾患(COPD)	日本	▶	▶	▶
● KHK4827	乾癬	日本	▶	▶	▶	
	Z-206	潰瘍性大腸炎(用法変更)	日本	▶	▶	▶
中枢神経	KW-6002	パーキンソン病	米国、カナダ、欧州、その他	▶	▶	▶
その他	○ AMG531	慢性特発性(免疫性)血小板減少性紫斑病	韓国、タイ	▶	▶	▶
		再生不良性貧血	韓国	▶	▶	▶
		X染色体遺伝性低リン血症性(成人)	米国	▶	▶	▶
	● KRN23	X染色体遺伝性低リン血症性(小児)	米国、欧州	▶	▶	▶
		腫瘍性骨軟化症/表皮母斑症候群	米国	▶	▶	▶

### (参考) バイオシミラー開発状況

種別 <sup>*1</sup> 開発番号	一般名	開発国	開発段階
● FKB327	アダリムマブ(ヒト型抗ヒトTNF- $\alpha$ モノクローナル抗体)	米国、その他	フェーズIII
● FKB238	ベバシズマブ(ヒト化抗ヒトVEGFモノクローナル抗体)	英国	フェーズI

\*1:●:抗体 ○:たんぱく製剤 無印:低分子化合物

### 医薬品が開発されるまでの流れ



### 用語解説

出典:くすりの情報Q&A55(日本製薬工業協会)

**第I相臨床試験** 少数の健康な人<sup>\*</sup>を対象に、副作用などの安全性について確認します。 ※試験によっては患者さんが対象になります。

**第II相臨床試験** 少数の患者さんを対象に、有効で安全な用量や用法などを確認します。

**第III相臨床試験** 多数の患者さんを対象に、有効性と安全性について既存の標準薬などとの比較を行います。

試験は全て、被験者の同意を得て治験医の管理下で行われます。

## 新たなバイオ医薬品の創出を、研究者たちとともに目指します

Kyowa Hakko Kirin California (以後、KKC) のCSOに就任したAndrew McKnightです。私は、KKCのCSOに選ばれたことをとても光栄に思っており、KKCの価値を最大化できるように全力を尽くすつもりです。以前から、バイオ医薬品業界における協和発酵キリンの輝かしい実績に注目していました。英国のUCB-Celltech社在職中は、BioWa, Inc.からライセンスを受けた抗体の活性を増強するための技術(POTELLIGENT®技術)に触れる機会もありました。そのため、今回協和発酵キリンの一員として、免疫・アレルギー疾患の治療薬となり得る新しいバイオ医薬品の候補を見出す機会を得て、成果の創出に尽力できることをとても楽しみにしています。

大学での研究時代は、オックスフォード大学とハーバード大学で免疫学の研鑽を積み、これまでに在籍したUCB-Celltech社やPfizer社、AnaptysBio社においても、主に自己免疫疾患の領域で、強力な抗体医薬の創出と開発に携わりました。

私は、バイオ医薬品企業で培ったスキルや経験を活かし、KKCの優秀な研究者とともに、新たな医薬品のアイデアを効率的、かつ、迅速に生み出して、強固な創薬パイプラインの構築に向け邁進していきます。

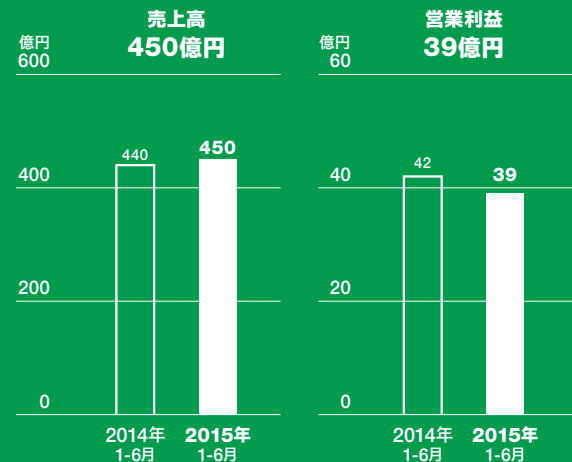


Kyowa Hakko Kirin California, Inc.  
CSO(最高研究責任者)

**Andrew McKnight**



発酵と合成の革新的な技術を駆使して、アミノ酸、核酸関連物質、ビタミン類、医薬品原料などの様々な有用物質を製品化し、確かな品質で世界の人々の健康で豊かな暮らしに貢献します。



2015年1-6月期の売上高は、前年同期比2.2%増の450億円でした。

国内では、医薬・医療領域ではジェネリック医薬品原薬の、ヘルスケア領域では飲料・食品用原料の売上高が前年同期を下回りましたが、「オルニチン」をはじめとする通信販売の売上高は前年同期を上回りました。

海外では、米国ではサプリメント向けアミノ酸が伸長し、欧州では輸液用アミノ酸等が伸長したことで、いずれも売上高は前年同期を上回りました。

アジアでは、前年同期の中国向けの核酸関連物質の集中出荷が今期はなくなりましたが、為替影響等により売上高は前年同期を上回りました。

### タイ工場竣工

人口増加や経済成長、生活スタイルの変化に伴い、急成長を遂げるアジア地域のアミノ酸市場。将来の需要増に備え、4月に最新技術を導入したアミノ酸生産工場がタイで竣工しました。



## グローバルな生産販売体制の強化を進め、 世界の人々の健康と豊かさに貢献してまいります

2015年3月に協和発酵バイオの社長に就任した小谷です。

私は旧協和発酵工業に入社以来ずっと営業一筋で、2000年よりバイオケミカル事業に携わってきました。香港、北京、ニューヨークでの駐在を経て、グローバルに展開する当社の事業については、誰にも負けない見識と愛情を持っていると自負しています。バイオケミカル事業は、医薬用アミノ酸や医薬品原薬の生産・供給を行うファインケミカル分野、サプリメントや飲料・食品用のアミノ酸、核酸、ジペプチドなどの生産・供給に加えて、「協和発酵バイオの健康食品シリーズ」の通信販売を担うヘルスケア分野、種なしブドウの栽培などに用いる植物成長調整剤を提供する農業分野、の3つから成り立っています。

協和発酵バイオ株式会社  
代表取締役社長

小谷 進之



現在はグローバルな需要増に対応した医薬用アミノ酸の生産体制強化と、国内での高付加価値発酵製品の生産体制再編を進めています。就任早々の4月9日には、日本・米国・中国に次ぐ4番目のアミノ酸生産拠点であるタイに赴き、新工場の竣工式に出席し、着実に計画が進捗していることを実感しました。

今後とも発酵と合成の革新的技術を活かして、糖鎖やジペプチド他の新素材の製法開発や市場開拓に積極的に取り組み、安全安心な製品で皆様の健康と元気を支えてまいります。

### 協和発酵バイオの 発酵コエンザイムQ10EX

発酵法で製造した高品質・高純度のコエンザイムQ10を業界最高水準の一日180mg配合。さらに、若さはつらつ成分のビタミンEと、Q10をまもる成分のマルチカロチノイドも加えて、シニアの元気をサポートします。

ONLINE SHOP

ご購入は、協和発酵バイオの健康食品オンラインショップ  
<http://shop.kyowahakko-bio.co.jp/>





## 「私たちの志」ビデオコンテスト

国内外のグループ会社の社員が  
「私たちの志」への  
思いを3分間の  
ビデオで表現

2008年の協和発酵キリン設立時に1,000名を超える従業員が参加して作った「私たちの志」。いのちと歩み続けるという思いが込められています。この「私たちの志」をテーマに、昨年、社内では3分間のビデオコンテストを開催しました。

「私たちの志」への思いを新たにさせる作品や、協和発酵キリンとしての求心力を高める作品が国内外から合計20編集まりました。社内投票の結果、『笑顔になるチャンスは皆にある』(Kyowa Hakko Kirin California)と『町田チャレンジ!』(千代田開発 町田出張所)が大賞を獲得しました。

今年も継続してビデオコンテストを開催します。共通の礎である「私たちの志」を軸に、自分たちに何ができるのか、自分たちの使命は何かを改めて考える機会に繋がっていきます。



Webサイトで、一部のビデオを公開しています。(2015年末まで掲載予定)

[http://www.kyowa-kirin.co.jp/about\\_us/commitment\\_to\\_life/movie\\_2014/](http://www.kyowa-kirin.co.jp/about_us/commitment_to_life/movie_2014/)



「私たちの志」の全文は、協和発酵キリンWebサイトでご覧いただけます。

自分たちが積み上げてきたものを信じよう。

## 協和発酵キリン男子卓球部

皆様の応援を力に、  
2020年  
オリンピック出場を  
目指します

人事部 男子卓球部 松平賢二

私は2012年に入社し、現在4年目になりますが、歴史と実績のある協和発酵キリン男子卓球部の一員として、卓球に集中できる恵まれた環境の中で、日々練習に励んでいます。

私が今、大きな目標として掲げているのは、2020年東京オリンピックへの出場です。前回のロンドン大会ではリ

ザーブとして現地に赴いたのですが、そのときに味わった独特の空気を、今度は代表選手として味わいたいです。それを実現させることこそが、応援

してくださる皆様への恩返しになると思い、今から一步一步、準備を進めています。

また、「復興応援 キリン絆プロジェクト」の一環として行ってきた被災地での卓球教室などの社会貢献活動も、私たち卓球部にとって大事な活動の1つです。引き続き、取り組んでいきたいと思っています。

今後も、皆様のご期待にそえる活躍ができるよう、精いっぱい努力していきたいと思っていますので、温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



第65回(2015年)全日本実業団選手権優勝

協和発酵キリンをとりまく人たち  
 ~たった一度のいのちと歩く~

## 治療薬の開発スピードを 高めるには、患者と製薬会社の 信頼関係が不可欠

特定非営利活動法人 スマイルリボン 菅付加代子さん

「スマイルリボン」は、ヒトT細胞白血病ウイルスの撲滅を目指して設立された特定非営利活動法人です。このウイルスが原因で発症する白血病と脊髄麻痺の患者を中心に2005年に設立されました。私たちの目標はただ1つ、「お薬をつくっていただく」ことです。Aというお薬ができればB、BができればCと言うように、全ての患者に副作用が少なく効果のあるお薬をつくっていただくことです。そのために国に働きかけ、治療薬の研究開発が進むように要望活動をしています。難病を抱える患者にとって、新薬は唯一の「希望の光」です。2012年に協和発酵キリンから成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)に有効な新薬「ポテリジオ®」が発売されました。それまでATL患者には効果的な薬がなく、暗闇の中で生活していましたが、新薬の登場で多くの患者は「希望の光」を見つけることができました。残念ながら現状は、全ての患者に効果があるものではないですが、「希望」があることが大切なのです。製薬会社、医師、患者が強い信頼関係で結ばれ、共に同じゴールを目指すことで、治療薬の開発スピードは必ず高まるものだと思います。



菅付加代子さんが選んだ「私たちの志」の一行



「つくるものは、薬だけではない。  
 私たちは、あらゆる人の  
 笑顔をつくろう。」

「私たちの志」を読んで感動しました。このような思いで薬をつくってくれている人たちがいることが嬉しかった。もっと患者にも伝える活動をしていただきたいと思いました。

「私たちの志」は、協和発酵キリン設立時に従業員と経営陣が議論して作成したものです。製薬企業で働く者としての思いが込められています。全文はWebサイトでご覧いただくことができます。

Webサイト [http://www.kyowa-kirin.co.jp/about\\_us/commitment\\_to\\_life/](http://www.kyowa-kirin.co.jp/about_us/commitment_to_life/)

## 会社概要 (2015年6月30日現在)

### 会社概要

商号	協和発酵キリン株式会社
設立	1949年7月1日
資本金	26,745百万円
従業員数	7,474人

### 役員

代表取締役社長	花井陳雄*
代表取締役副社長執行役員	河合弘行
取締役 常務執行役員	立花和義
取締役 常務執行役員	三箇山俊文
取締役 常務執行役員	佐藤洋一
取締役(社外)	西川晃一郎
取締役(社外)	リボウィッツよし子
取締役	伊藤彰浩
常勤監査役(社外)	永井浩明
常勤監査役(社外)	小林高博
常勤監査役	山崎暢久
監査役(社外)	石原基康
監査役(社外)	瓜生健太郎

※執行役員兼務

### 執行役員

常務執行役員	大内 裕
執行役員	諸富 滋
執行役員	杉谷 浩
執行役員	井上雅史
執行役員	岡崎 寛
執行役員	安達和義
執行役員	設楽研也
執行役員	宮本昌志
執行役員	大石卓史
執行役員	中西 聡
執行役員	坂本二郎
執行役員	渡部珠雄
執行役員	大澤 豊
執行役員	村田 涉
執行役員	野田幸宏
執行役員	曾根川寛

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
キリンホールディングス株式会社	288,819	52.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,818	5.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,909	2.72
農林中央金庫	10,706	1.95
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	6,809	1.24
野村信託銀行株式会社(投信口)	6,305	1.15
ステートストリートバンクウエストク ライアントリーティー505234	5,582	1.02
ジェーピーモルガンチェースバンク 385147	5,250	0.95
資産管理サービス信託銀行株式会社 (投信受入担保口)	4,566	0.83
BNPパリバ証券株式会社	4,446	0.81

※持株比率は自己株式(29,194,502株)を控除して計算しております。  
 ※みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数6,809千株は、株式会社みずほ銀行が委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は株式会社みずほ銀行が留保しております。

### 株式の状況

発行可能株式総数	987,900,000株
発行済株式総数	576,483,555株
株主数	33,833名

### 所有者別株式分布状況

